



www.stephenpaschal.com

ひるの星

No. 242

もくじ	
バハオラの言葉	2
言葉の意味	3
大切なペット	4
バブの殉教	10
クイズ	16
ひとみでが一筆書き	17
紙づくり	18
みんなの写真	19
両親のページ	23

たましい

とも

魂 は「友」を

おも

お

思い起こすように

そうぞう

創造されている。

じゅんすい

その純粹さを

まも

守るように。

バハオラ

この意味は何でしょうか？

「魂は「友」を思い起こすように創造されている。その純粋さを守るように。」

バハオラ

この引用文では、「友」つまり神様を、知るために魂がつくられたとバハオラが言われているのです。人間の魂だけが神様を知ることができるのです。私たちは神様に話しかけるとき、いつも魂を純粋で清らかにしなければなりません。こうすることで魂は神様に近づくことができますからです。この世に見えるものは、すべて「チリ」で本当の姿のものは何もありません。魂こそが本当の私たちの姿です。いつも神様に話しかけ神様に近づくように努力してこそ、魂は成長できるのです。



www.stephenpaschal.com



大切なペット

お母さんが部屋に入ってきました。アスマとリアズは
マリオ・ブラザーズというテレビ・ゲームに夢中になっていました。このゲー
ムは慶子おばさんがプレゼントしたものでした。

「いいお天気だから外で遊びなさい。」とお母さんが言いました。

リアズが「こっちの方が面白いんだもん。」と答えました。「それに、アスマに
もう少しで勝つところだもの。」

二人のゲームを見物していたシャラが言いました。

「だめよ、男の子は外に行きなさい。私たち女の子が『美女と野獣』のビデオ
を見るから。」

お母さんがため息をつきながら言いました。

「みーんな、外で遊びなさい。みんなの大切なペットは弱ってきていて、お家の
中で病気のようにぐったりと座りこんでいるじゃないの。外に連れ出して新鮮
な空気と太陽に当てなくては。そして運動させるといいのよ。」

子供たちはみんなびっくりして今までしていた手を休めて、お母さんの方を
一斉に見ました。

「ペット？どんなペット？」誰もペットなんか飼っていなかったからです。

みんなの表情が『お母さんはペットをどこかに隠していて、驚かすつもり

かな?』と不思議そうに見えました。年長のモナが最初に切り出しました。

「ねえ、お母さん、私たちにペットをくれるの?」

お母さんは笑いながら言いました。

「みんながお母さんのお腹にいるとき、神様がみんなに下さったペットのことを言っているのよ。」子供たちは誰もお母さんの言っていることが、さっぱり理解できませんでした。

リアズが「なんのこと!」と叫びました。「お母さんの言っている意味がわからない。」

そう言っているリアズにお母さんは近づいて行って、リアズのほおをつねって、ひとなでしました。そして言いました、

「ほらね。リアズの可愛いペットがいるでしょ。」子供たちは、ますますわからなくなりました。

「神様は魂が色々なことを学んで成長していくように、身体と知恵を下さったのよ。だからみんなにはその面倒をみる責任があるのよ。一番大事にしなければならないペットなのよ。赤ちゃんのときは、お父さんとお母さんにその責任があったのよ。バハオラも

『汝の胎内より生まれ出る前に我汝のために輝く乳を出す二つの泉を、汝を見守る目を、汝を愛する心を前もって準備していたのだ。』と言われているの。でも、大きくなっていくと自分で面倒をみていくようにしなくちゃね。」

子供たちはそれまで夢中になっていたゲームとか映画のことをすっかり忘れ

て、^{たが}互いに見^みつめ^あ合っていました。

「私がペットだなんて。」とアニサがつぶやきました。

「これはどういうことなのか、はっきりさせよう。」とアスマが^き切^だり出しました。

「おれの^{からだ}身体が^{たましい}魂のペットだって？」

「そうよ。」とお母さんが^{つづ}続けました。「アスマの^{たましい}魂は^{かみさま}神様の^{せいしんせかい}精神世界からや
って来たのよ。それが^{ほんとう}本当のアスマの^{すがた}姿なのよ。シャラ、あなたの^{かみ}カールの^{じしん}髪
はあなた自身ではないようにね。だってシャラの^きカールを^お切^き落としても、そ
れがあなたというわけではないでしょ。爪を^{つめ}切^きったからって、それも^{おな}同じこと
よ。そう、あなたの^{からだ}身体のどの^{ぶぶん}部分だって、あなた^{じしん}自身ではないはずよ。あな
たの^{からだ}身体は、ただあなたの^{たましい}魂を^{きかざ}着飾っているだけなのよ。ある日あなたがピ
ンクの^きドレスを^{あお}着^きていて^{あお}青い^きドレスに^が着^き替えても、どちらもあなた^{じしん}自身は変わ
らないものね。」



^{こども}子供たちはそれでもな^{りかい}お理^り解^{かい}しきっていないようです。

モナだけお母さんの言っていることが^{すこし}少^すわかりかけてきたよう
です。

「だから^{かみさま}神様は^{わたし}私たちの^{たましい}魂を^きく^{からだ}ださって、それに^き着^{からだ}せる身体を
く^きださったというわけ？」

お母さんは^{ほほえ}微笑^{とお}みながら、その^{とお}通^いりと言^いわんばかりにうなずきました。

さらにモナが^{つづ}続けました。

「それで私たちの^{からだ}身体と^{ちえ}知^{つか}恵^{たましい}を使^{つか}って^{たましい}魂^{せいちょう}が成長^{せい}していくというわけね。」

アスマが「なるほど。」と言っとうなずきました。

「目^めで見て、耳^{みみ}で聞いて、知恵^{ちえ}を働^{はたら}かせながら、魂^{たましい}は色々^{いろいろ}な事^{こと}を習^{なら}っていくんだね。」

お母さんが「そう、それなのよ。愛^{あい}や忍耐^{にんたい}、優^{やさ}しき、正義^{せいぎ}、情^{なさ}けなど、次^{つぎ}の世^よで必要^{ひつよう}とする神様^{かみさま}から与^{あた}えられたものを、この世^よで習^{なら}って準備^{じゅんび}するのよ。これらは先^まずみんなのお父^{ちち}さん、お母^{はは}さんから習^{なら}って、学校^{がっこう}の先生^{せんせい}や周り^{まわ}りにいる人^{ひと}みんなからも習^{なら}っていくのよ。でも、ただ習^{なら}うだけでは足^たりないのよ。身体^{からだ}と知恵^{ちえ}を使^{つか}って社会^{しゃかい}に役立^{やくだ}つように奉仕^{ほうし}してこそ魂^{たましい}は成長^{せいちょう}していくのよ。このよう^{よう}にして私^{わたし}たちは神様^{かみさま}に近^{ちか}づいていくのよ。」

魂^{たましい}の事^{こと}をもっと知^しりたいシャラが、首^{くび}をかしげながら尋^{たず}ねました。

「私^{わたし}たちが嬉^{うれ}しいとか悲^{かな}しいとき、魂^{たましい}がそれ^{それ}を感じ^{かん}じるわけ？」

お母^{はは}さんが答^{こた}えました。「そうなの。魂^{たましい}が喜^{よろこ}びとか悲^{かな}しみ、愛^{あい}や感謝^{かんしゃ}の気持^{きもち}、それと情^{なさ}けも感^{かん}じるのよ。私^{わたし}たちがお祈^{いの}りをする時^{とき}、魂^{たましい}が神様^{かみさま}にお話^{はなし}するのよ。目^めが神様^{かみさま}の言^{ことば}葉^はを讀^よみ、口^{くち}が神様^{かみさま}の言^{ことば}葉^はを言^いって、魂^{たましい}が神様^{かみさま}に話^{はなし}しかけるのよ。バハオラがもう一つ魂^{たましい}について大^{だい}事^じな事^{こと}を言^いわれているのよ。それは魂^{たましい}が最^{さい}初^{しよ}に神様^{かみさま}がいらっしやるのを知^しるそうよ。お母^{はは}さんが一^{いち}番^{ばん}言^いいたかったのは、みんなは自^じ分^{ぶん}で自^じ分^{ぶん}の身^{からだ}体^{たい}を大^{だい}事^じにして、知^{ちえ}恵^{つか}も使^{つか}うようにしなければならぬということなのよ。そうしないと何^{なん}の成^{せい}長^{ちよう}もな^ないし、奉^{ほう}仕^しの精^{せい}神^{しん}も育^{そだ}たないのよ。アニサ、あなただ^{たい}の切^{せつ}なペ^ぺットを大^{だい}事^じにするにはどうし

たらしいと思う？」

アニサはちょっと考えて…。いつも子猫を欲しいがっていたので、

「もしアニサが子猫を飼っているなら、忘れないで餌をあげてミルクもあげて、

暖かいベッドで寝かせて、いつも一緒に遊んであげるわ。」

「いい考えね。」とお母さんが褒めました。「ちょうど子猫にしてあげるよう

に自分の身体に栄養がいい食事をとって、適度の運動と休みもとって、いつも

身体を清潔にして身体に何が必要なのかを常に気をつけるといいわね。」

お母さんは、ちょっと考えて続けました。

「でも、良いことばかりではなくて、世の中には身体や知恵に良くないものも

あるわね。何か考えられる？」

リアズが叫んでいました。「食べ過ぎて太るのは良くないなあ。」みんなは笑ってしまいました。

「それとは逆に食べるのを控えたり、甘いものばかり食べたりするのも良くないわ。だって虫歯になっちゃうしね。」とシャラが続けました。

モナがこっそりと付け加えました。

「それに、お酒を飲むと脳に害を与えるから、飲まないようにとバハオラがおっしゃっているわ。」

お母さんはそれにうなずいて言いました。「そうよ。でもみんなは、しばらくその心配には及ばないわ。」

「ところで、話は変わるけど、お天気がいい日にテレビばかりにかじりついていると、大事なペットを忘れてしまうわね。みんな外に出て、ペットのためにボール遊びや鬼ごっこ、なわとびなどをしたらどうなの？ 今晚の夕食も美味しくただけてこんな良いことはないわね。」と言いながら、お母さんはテレビを消しました。

みんなは外に出て行って、楽しそうに遊びました。



バブの殉教

ある暑い日の沖縄でのお話です。お母さんは台所でアップルパイをつくるのに忙しくしていました。子供たちは自分たちの部屋で忙しく外出着に着替えていました。モナがみんなの監督をしていました。

「リアズ、だめよ！お母さんから言われていたようにフィースト用にちゃんとした服装にしなくては。そんな遊び着ではだめでしょ。」その声は家中に響き渡りました。

その声を聞いてお母さんは台所を離れて、急いで子供部屋の様子を見に来ました。モナはシャラのカールの髪をときほぐしているところでした。リアズはお母さんに気付かず、モナに向かって舌を出していました。モナはそのリアズにブラシを投げつけました。暑い陽気でみんな落ち着かない様子でした。年少のアニサがお母さんの所に走って行って、お母さんの洋服を引っ張りました。そして他の子供たちを指さしながら、尋ねました。

「みんなここで何をしているの？今日は日曜日なの？」

アスマが「ばかだなあ、おまえ。バハイの祝日だぞ、今日は。お母さんから聞いていただろう。バハイの祝日はみんな学校に行かないんだ。」

リアズが「やった！学校へ行かなくていいんだ、今日は。」と叫びました。

「でも、遊び着でリラックスできるともっといいんだがなあ。」

シャラが「ところで、^し知ったかぶりのアスマ、^{きょう}今日が^{なに}何の^{しゅくじつ}祝日^しだか知っているの？」と尋ねました。

シャラは^{じしん}自信ありげでした。というのも^{かのじょ}彼女は^{まえ}前の日にお母さんからその^{こた}答えを^き聞いて^し知っていたからでした。



アスマが「もちろん知っているさ。」とやり返しました。「バブの^{たんじょうび}誕生日だろう。」

シャラがモナの^{おうえん}応援を得て「まちがい！」と^{さけ}叫びました。

「バブの^{じゅんきょう}殉教の日でした。」



アスマがいちいちうるさいなあと言った^{かお}顔で「そうだよ。^し知っていたよ。」と^{くち}口ごもりながら^い言いました。

アニサは^{なに}何が^{なん}何だかさっぱりわからないといった^{ようす}様子で

「バブのジン？^{なに}ジュン何？」と^{たず}尋ねました。みんな^{わら}笑ってしまいました。

お母さんが^{つづ}続けました。

「それでは、アニサに^き聞くけども、バブが^{だれ}誰^しなのか知っているの？」

アニサが「もちろん。」と^{ほほえ}微笑みながら^{こた}答えました。

「^{かみさま}神様が^{わたし}私たち^{にんげん}人間の^{せんせい}先生として^{おく}送って^こ来られた^{かた}方よ。バハオラが^こ来られることを^{おし}教えてくださったわ。」

お母さんが「すごい！アニサ。」と^{おどろ}驚きながら^い言いました。^{おどろ}驚いたのはお母さん

だけでなく部屋へやにいたみんなでした。それを見たアニサはちょっとがっかりして言いました。

「たしかに私わたしは小さい子供ちいこどもかもしれないけど、これぐらいのことは知しっているのよ。」そこで、もう一度みんな笑わらってしまいました。

お母さんが「その通りよ。殉教じゆんきやうって、信しんじていることに反対はんたいされて殺ころされてしまうってことなのよ。1850年ねんにペルシャいま（今のイラン）のタブリーズとい
う所ところでみんなから愛あいされ尊敬そんけいされていたバブが、その素晴すばらしい教おしえのために
銃殺刑じゆうさつがいにあったのよ。」

そのお話はなしを聞きこうとして子供たちがお母さんを囲かこんで床ゆかに座すわりこみ始めまし
た。「バブが牢屋ろうやに向むかう途中しちゆう市中ひ引き回まわされた時とき、一人ひとりの若者わかものが飛とび出だしてき
たのよ。そしてバブの足元あしもとにひざまずいて、バブのお供ともをしたいと願ねがい出でたの
よ。バブが答こたえて『さあ、お立たちなさい。そして私わたしと一緒いっしょに来て、癒きされなさい。

あした、汝なんじは神かみの定さだめている証人しょうにんとなるであろう。』さて、この若者わかものの名前なまえは何
でしょう？」

「アニス。」とモナが答こたえると、

アニサが「私わたしのこと？」と叫さけびました。「私わたしの名前なまえだったの？」

するとアスマが「アニスは男おとこの名前なまえだよ。アニサが女おんなの名前なまえでね。」物知ものしりぶ
つて付け加くわえました。アスマは去年きょねんこのことを発見はっけんしたばかりでした。

「そうよ。そうなのよ。」とお母さんが続つづけました。

「アニスはね、バブから離れるのが耐えられなかったのよ。アニスはバブのそばにいつまでもいたいと願っていたの。たとえそれが死ぬことになってもね。だからアニスは牢屋にまでもお供したかったのね。

次の朝、バブは御自分がおっしゃることを秘書に書き留めさせていたの。牢番が処刑場にバブを連れ出そうとしたけど、バブはお話が終わるまでは地上のどんな権力も中止できないと牢番に告げたの。でも牢番はそれを無視してバブを連れ出したのよ。バブとアニスが宮廷の庭に連れ出された時、一万人ほどの見物人が集まっていたのよ。バブは処刑場の壁に吊るされて、その胸にはアニスの頭が当てられて一緒に吊るされたのよ。そして750人もの銃殺隊が三列に並んで、二人を狙って構えたのよ。」

お母さんは少し間をおいて、部屋を見回しました。アスマとリアズは身体を乗り出して、その続きを待っていました。モナとシャラは悲しそうでした。アニサはお母さんの膝に頭を乗せて、次はどうなるかと固唾を呑んで待っていました。

「その隊長、サム・カーンはバブが無実だと知っていたし、キリスト教徒の自分はこんなことをしたくないとバブに告げていたの。でもバブはサム・カーンに心配要らない、本当に誠実であれば、これは神がお許しになると言ったのよ。その言葉を聞いてサム・カーンは銃殺隊に『狙いを定めて、撃て、撃て、撃て！』と叫んだの。三列に並んだ銃殺隊は順々にバブとアニスを狙って、

ライフルで撃ったの。」

「ああ、いやだ。ああ、いやだ」とアニサがお母さんの膝に頭を深くうずめながら叫びました。

「昔のライフルは火を噴いた後、大変の煙を出したのよ。だから誰もしばらくは何が起きたか見えなくなったのよ。煙が薄くなった時、みんな自分の目を疑ったの。アニスは無傷のまま、その場に立っていたし、バブの姿はそこにはなかったの。見物人が見たのは何とバブが牢屋に戻っていて、秘書に御自分のおっしゃることを書かせていたの。それが終わると銃殺隊に向かって『さあ、みなさんの任務をまっとうしなさい。』とバブが告げたの。サム・カーンは動転して、自分の隊をこれ以上関わらないようにその場から退場させてしまったの。仕方なく当局は新しい750人の銃殺隊を連れてきて、もう一度バブとアニスを銃殺刑にすることにしたの。今度は命中して、バブとアニスの身体はボロボロになってしまったの。でもね、驚いたことに二人の顔はほとんど傷ついていなかったのよ。今はね、それは美しいバブの社がイスラエルのハイファにあるカルメル山の斜面にあるのよ。世界中から人々がそこに来て、お祈りするのよ。そして、そこにはアニスも葬られていて、決してバブと離れないようになってるの。」

お母さんはお話を終えながら、涙を浮かべてしまいました。そのお母さんの涙目に移ったのは、子供たちの涙でした。

「頑^{かたく}々な人々よ、もしあなた方^{がた}が私^{わたし}を信じていたならば、あなた方^{がた}のほとんどよりも位^{くらい}の^{たか}高いこの若者^{わかもの}の例^{れい}に習^{なら}い、みんなが神^{かみ}への道^{みち}へと自ら^{みづか}を犠^{ぎせい}牲^{せい}としたことであろうに。あなた方^{がた}が私^{わたし}を認^{みと}める日^ひがやってくるであろう。しかしその時^{とき}私^{わたし}はもはやあなた方^{がた}と共^{とも}にはいないであろう。」 バブ



[WW](#)
[W.S](#)

tephenpaschal.com

クイズ

1. 大切なペットは何ですか？

2. 大切なペットをもらうのはいつですか？

3. 大切なペットをお世話するにはどうしたらいいですか？

4. 大切なペットを傷つけてしまうのは何ですか？

5. バブって誰ですか？

6. 殉教とは何のことですか？

7. バブはどこで殺されたのですか？

8. バブと一緒に死のうとしたのは誰ですか？

9. バブとアニスを最初の750のライフルが狙い撃ちした時、何が起きましたか？

10. バブとアニスが葬られているのはどこですか？

うまく答えられましたか？
答えは両親のページにあります。



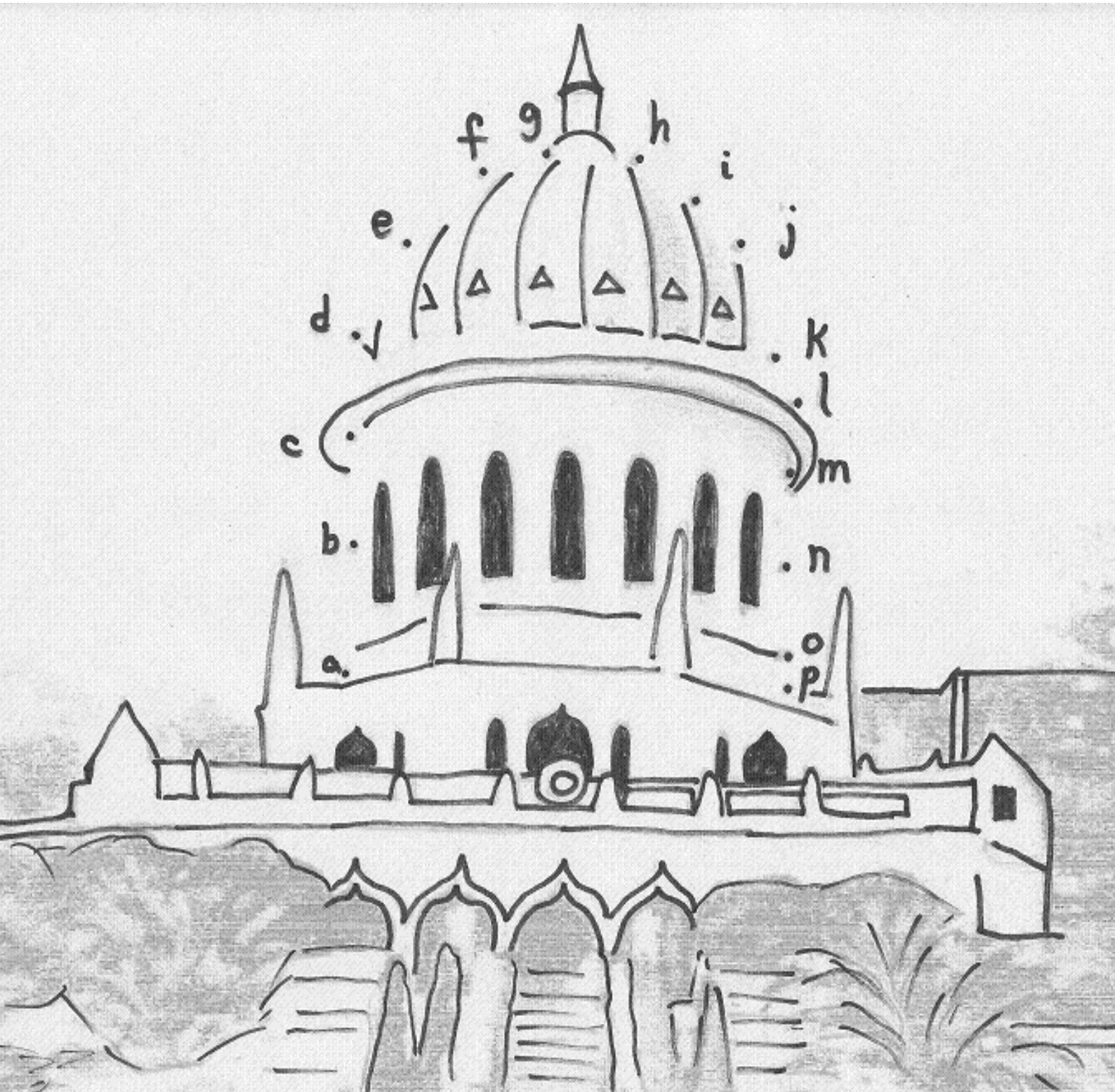
ぬり絵

a から b へ....

b から c へ....

^{てん}点をつなげて^え絵を完成してみましよう？

完成したら、ぬり絵してみましよう。ドームは^{きんいろ}金色です。





かみ 紙づくり

ようい 用意するもの

ぎゅうにゅう
牛乳パック

ミキサー

もくせい がくぶち ていど
木製の額縁 (15cm X 20cm程度)

ホッチキス

あみど あみ がくぶち おお ていど
網戸の網 (額縁の大きさ程度)

スポンジ

せんめんき がくぶち おお
洗面器 (額縁より大きめ)

タオル地のハンカチ (額縁大)

はさみ

1. ぎゅうにゅう
牛乳パックをはさみで切り刻む。それを多めの水と混ぜて、紙がのり状になるまでミキサーにかける。ぎゅうにゅう
牛乳パックが固いためミキサーが熱くなりやすいので、すこ
わ
少しずつ分けてつくとよい。
2. がくぶち あみど あみ
額縁に網戸の網をホッチキスで固定する。
3. せんめんき はんぶん みず い
洗面器半分ほど水を入れ、のり状の紙を注ぐ。
4. みず ま
水と混ざった、のり状の紙を額縁の網にすくって乗せる。

5. ^{あみ}の乗った紙に^{かみ}花や^{はな}茎^{くき}、^は葉っぱなどを乗せて、^{がくぶち}額縁をゆすりながら^{かみ}紙を平らにする。
6. ^{かみ}紙が平らになるのを^{たし}確かめながら、^{がくぶち}額縁を^{せんめんき}洗面器から^と取り^だ出す。そして軽く^{かる}水を^{みず}切^きる。
7. タオル^じ地ハンカチの一つの^{かど}角を^{がくぶち}額縁の^{かど}角に^あ合わせて、^{かみ}紙の^{うえ}上にかぶせる。その^{うえ}上から、また^{がくぶち}額縁の^{した}下からも^{みず}スポンジで^す水を^と吸い^{みず}取る。スポンジが水を^す吸いとらなくなるまで^く繰り返^{かえ}す。
8. ^て手で^{かみ}紙とタオルを抑えたまま^{がくぶち}額縁を^{かえ}ひっくり返す。^{かみ}紙が^{やぶ}破れないように^{がくぶち}額縁の一つの^{かど}角から^{つめ}爪で^{かみ}ていねいに^{いっしょ}紙とタオルを^と一緒にはがしていく。
水分が^{すいぶん}多^{おほ}すぎるとはがしにくいので、その^{まえ}前に^{すいぶん}水分を^{じゅうぶん}充分に^す吸い^と取る。
9. ^{かみ}紙はタオルに^の乗せたまま^{かわ}乾^{かわ}かす。乾かす^{あいだ}間、^{あたら}新しい^{かみ}紙をつくる。
10. ^{かわ}乾いた^{かみ}紙に^{いんようぶん}バハイの引用文を^か書き^こ込む。
^{できあ}出来上がった^{かみ}紙を^{がく}額に^い入れたり、^{かけじく}掛け軸にしたりして^{だれ}誰かにプレゼントしたら
どうでしょう。



春のジュニアユース・スクール、福岡





うみ なかみちかいがんせいそうかつどう
海の中道海岸清掃活動



シカゴのバハイの子供

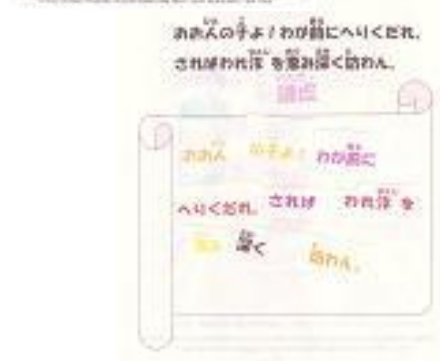




高松の子供と作品



子供の作品 滋賀県湖南市



保護者のページ

保護者は子供と話し合っ、肉体的にも精神的にも成長する責任は子供にあることを、理解させる必要があります。

学校では、社会で役立つ知識を学ぶ義務（責任）があります。さらに家庭では、社会に役立つ健康な身体と心に成長させる責任があることも教えましょう。ペットがいれば、そのペットに食事、運動、休みを充分にとらせて、いつも清潔な身体にして可愛がるのと同じです。子供がこの責任を感じとったら、自分と社会の両方を可愛がる気持ち（心）が湧いてくる筈です。

身体が本当の自分の姿ではないと理解したら、その身体と共に成長する心（魂）についても話し合ひましょう。

次に以上のことに関連するバハイの引用文を紹介します。

動物とは違うところは人間には理性ある靈魂、つまり、人間の英知が宿っていることである。

神靈が人間の靈魂に感応してその知性が明るく輝きわたるようになって初めて人間が万物の靈長（計り知れない力を持っている、すぐれたかしら。）となるのである。

物質の創造全体は滅びる性格のものである。これらの肉体は原子によって構成され、その原子がお互いに分離して、分解し始めるとき、死と言われる状態になる…。魂はいくつかの要素によって構成されているものではない。それはひとつの、分解できない素材によって創られている。つまり、魂は物質の世界に属さないものであり、永遠なものである！

万物は生き、そして死んでいく。そしてほかの形をした生き物となってふたたび生きるのである。しかし、精神の世界ではこれとはまったく異なる。魂は、法則にそって、段階から段階へと進化するものではない。それは、神の慈悲と恩寵により、神に接近していく進化である。

1) 身体と知恵 2) お母さんのお腹にいるとき 3) 食べさせる、運動をさせる、お休みさせる、習わせるなど 4) 食べ過ぎ、お酒、害のある食事をする、悪いマンガを読むなど 5) 神の顯示者、6) 自分の信じている、正しいことに反対されて殺されること。7) 1850年、ペルシャ（今のイラン）タブリーズ 8) アニス 9) アニスは無傷のまま立っていたし、バブは牢屋に戻っていて御自分のおっしやることを秘書に書かせていた。10) イスラエルのハイファにあるバブの社。



皆さんのお子様のバハイ活動でみんなに役に立つ
いいお話、又は写真などがあれば、送ってください。
vb7mb7@bma.biglobe.ne.jp に送ってください。

ひるの星

№. 242

2010年6月発行

ひるの星をカラー印刷するには以下のリンクにアクセスしてください。

<http://www.bahaijpn.com/daystar.htm>

日本バハイ全国精神行政会

〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目2番13号

電話：03-3209-7521 FAX：03-3204-0773

ひるの星委員会：平原静志、平原ルアナ、マクティア・理恵

協力

物語：平原ルアナ

和訳：平原静志

写真：小島えり子、安岡なお子、平原ルアナ、

絵：ステイヴン・パスカル、ラリー・カーティス、バーバラ・キャスターライン、平
原ルアナ、サナ・マジズーブ

テクニカル・アドバイザー：尊田望

監修：平野祐一